

学校での突然死を0に!

日本スポーツ振興センターのデータによれば、学校管理下での子どもたちの突然死は幼稚園や保育所を含め2023年度までの10年間で209件にのぼります。これは**死亡事故全体の41%を占め、死因の1位**となっています。一方、学校管理下の子どもたちの突然死は、1980年代当初1年間で150件以上もありました。心肺蘇生やAEDの普及によって多くの子どもたちの命が救われてきたのです。**学校での突然死ゼロは決して夢ではありません。**各学校では、緊急時の行動計画を定めそれを実践できるようにしておきましょう。

※Emergency Action Plan：事故発生時に適切かつ迅速に行動するための緊急時対応計画



危機管理体制の整備

- [危機管理マニュアル] 「緊急時には管理職への報告より救命処置が優先」「その場から119番」を徹底していますか？危機管理マニュアルは定期的に見直していますか？
- [傷病者発生時の判断・行動チャート] 人が倒れた時の判断・行動チャートを作成していますか？
- [緊急連絡体制] 携帯電話所持やインターフォン配備など校内緊急連絡体制を構築していますか？
- [アクションカード等] 救命の現場での必要な行動や119番通報の仕方などを記載したアクションカードや一覧表を整えて周知していますか？
- [AED] AEDは片道1分以内で取りに行ける場所に準備してありますか？子どもたちを含め全員がAEDの設置場所を知っていますか？AEDの標識は各所に見える場所に貼ってありますか？
- [緊急携行物品] 緊急時に携行する物品がまとめてあり、全員がその保管場所を知っていますか？
- [健康状態の把握] 子どもの健康状態が把握され、要注意情報が共有されていますか？天候や運動強度等はチェックしていますか？
- [消防機関や医療機関との協力] 関連の消防機関や医療機関との協力体制は整っていますか？
- [メンタルケア] 救命の現場にいた子どもや大人に心身の不調が出た場合の連絡・相談体制は整っていますか？

学校関係者への救命教育の推進

- [緊急事態想定訓練] 「子どもが突然倒れた」ことを想定した訓練を全教職員で実施していますか？
- [救命実技訓練] 全教職員が心肺蘇生・AEDの実技訓練を定期的に通っていますか？手技だけでなく早期の救命処置の重要性の理解が徹底していますか？
- [指導者の育成] 教員が子どもたちに心肺蘇生・AEDを指導できる体制が整っていますか？
- [子どもへの救命教育] 発達段階に応じ、「命の大切さ」を学ぶ一環として心肺蘇生・AEDに関する教育を実施していますか？
(例)

小学生	実習を通じて心肺蘇生・AEDの重要性を理解し、「大人を呼びに行く」「救命処置を手伝う」など自分にできることを確認するなど
中・高校生	実習を通じて心肺蘇生の方法、AEDの使用法を身に付ける。大人や仲間とともに実際に行動できる能力を伸ばすなど。
- [保護者への啓発] PTA等で心肺蘇生・AEDに関する講習会を実施するなど救命教育の意義について理解を促していますか？

「傷病者発生時の判断・行動チャート」(ASUKAモデルより)

取組前に
まずチェック!



観点		チェック項目
未然防止	天候	<input type="checkbox"/> 天候については、どのような留意を要するのか。
	健康状態	<input type="checkbox"/> 健康上配慮する子どもは誰か。また、どう配慮するか。
	指導計画	<input type="checkbox"/> 指導者の役割分担は、明確になっているか。 <input type="checkbox"/> 活動の場は、安全が確保されているか。
事故発生時の対応		<input type="checkbox"/> AED等の重大事故発生時携行機材は、どこにあるか。
		<input type="checkbox"/> 緊急連絡用の携帯電話等は携行しているか。
		<input type="checkbox"/> 管理職及び養護教諭の所在を把握しているか。
		<input type="checkbox"/> 事故発生時における指揮命令者は、誰か。

救命処置は**“秒”**を争います。
ためらわずに**行動**を
起こしましょう!

【救急車の要請方法】

その場から携帯電話で119番通報

→「救急車をお願いします」

- ・「～学校です。住所は〇〇〇です。」
- ・傷病者の状況(学年・性別・意識の有無・呼吸の有無・けいれんの有無・全身の蕁麻疹の有無)
- ・通報者の氏名を伝える

・強く

大人は約5cmの深さ
小児は胸の厚さの1/3沈み込むように

・速く

1分間に100回-120回のリズムで

・絶え間なく

中断は10秒以内

救命活動は

- ・すぐにやる!
- ・誰もがやる!
- ・皆でやる!



反応(意識)

「なし」 「わからない」



応援要請

その場から119番通報 AED手配

現場から自身の判断で



普段どおりの呼吸

「なし」 「わからない」

「あり」



- ・回復体位
- ・気道確保
- ・目を離さず継続的な経過観察
- ・悪化したらただちに心肺蘇生を開始

その場で心肺蘇生の実施

- ・ただちに **胸骨圧迫**
- ・可能なら気道確保をして人工呼吸(2回)
- ・胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返す



AEDが到着したら、

電源を入れ、
AEDの指示に従い操作する

ショック後ただちに胸骨圧迫を再開
(ショック不要でもただちに再開)

救急隊に引き継ぐまで、
または傷病者に呼吸や目的の
ある仕草が認められるまで
心肺蘇生を続ける。

指揮命令内容チェックシート

- 周囲の安全は確認したか
- 傷病者の状況を的確に把握しているか
- 心肺蘇生を含む応急手当を継続して行っているか
- 応援の要請をしたか
- 救急車の要請をしたか
- 消防指令センター員による口頭指導を伝達したか
- AEDなどの重大事故発生時携行機材を手配したか
- AEDの電源をいれ、パッドを装着したか
- 保護者に事故概要などを伝えたか
- 周囲にいる児童生徒を離れた場所に移動させたか
- 救急車の進入路を確保しているか
- 救急車の誘導の準備はできているか
- 事故対応について時系列に記録をしているか

救命の現場にいた子どもや
大人へのメンタルケアを
心掛けましょう



公益財団法人

日本AED財団

編集

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13山手ビル3号館1階



/ 日本臨床救急医学会